2017.9.22 中日

小松基地 ミサイル損壊

3月発見、申告なし 数発 被害2950万円

航空自衛隊小松基地（石川県小松市）の弾薬庫で保管していたミサイルの実弾数発が今年三月、損壊した状態で見つかっていたことが、関係者への取材で分かった。修理費は約二千九百五十万円に上る。関係者によると、申告がなかったため、発見されるまで同基地は把握しておらず、管理態勢が問われそうだ。＝関連㉛面

同基地は防衛省に報告。ミサイルは実弾であるため、基本的には整備補給群の装備隊が行う整備、点検作業以外では取り扱われていない。

弾薬庫は空自隊員以外の立ち入りは不可能で、普段出入りしている隊員らから事情を聴くなどして原因を調べている。同基地は「損壊時期や故意によるものか過失かは分かっていない」としている。

小松基地によると、損壊していたミサイルは戦闘機に搭載する空対空誘導弾数発。基地の隊員が三月に弾薬庫内を点検した際、損壊した状態のまま保管されているのを見つけた。ミサイルは戦闘機からの電気信号で発射され爆発する仕組みで、外部からの衝撃だけでは爆発しないという。廃棄するほどの損壊状況ではなかったが、実際に使用するためには修理が必要な状態だった。

空自が保有している空対空ミサイルは、一発二百キロ以上の重量のものもあり、複数の隊員が損壊を把握していた可能性もある。

軍事評論家の前田哲男氏は「ミサイルは厳重に守られるべき国有財産。自衛隊法違反に当たる場合もあり、基地は事実関係や原因をしっかりと調査する必要がある。申告を怠った隊員がいるなら、重大な規律違反だ」と指摘した。

実弾ずさん管理 憤り

ミサイル損壊 小松基地周辺住民ら

航空自衛隊小松基地（石川県小松市）の弾薬庫で保管していたミサイルの実弾数発が今年三月、損壊した状態で見つかったことを受け、二〇一五年から運用が始まった弾薬庫を含む「えん体地区」近くに住む五十代男性は「爆発の危険がないと分かっていても不安になる。ましてやずさんに実弾を管理するのは論外だ」と基地を批判。「徹底的な安全管理をしてもらわないと夜も安心して眠れない」と心情を吐露する。＝❶面参照

小松基地爆音訴訟連絡会の長田孝志代表（七三）は「実弾が壊れた状態で見つかるなんて考えられない」と語気を強める。「弾薬庫では、もしものことがあってはならず厳重に管理されないといけない場所。危機管理が全然なっていない」と管理体制の緩みを指摘した。